



社団法人 吹田青年会議所
創立30周年記念誌

**Just 1999
Do It.**



The Creed of Junior Chamber International

We Believe :

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

『JC宣言』

変革の能動者たらんとする青年として
個人の真に豊かな生活の実現を通して
自立した快適で活力ある地域を創造し
自由と公正を保障する国家を基盤として
世界の平和と繁栄に貢献し
地球上のすべての人と
共に生きることを誓う

30th 綱 領

われわれ Jaycee は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者相集い力を合せ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

SuitaJC

目 次

理事長挨拶	4
祝 辞	5
30年のあゆみ	11
25周年提言の成果(30周年記念事業)	22
創立30周年記念大会	28
堺屋太一 経済企画庁長官からのメッセージ 「今再び考えよう人類の進歩と調和」	30
更なる飛躍……今後のビジョン	33
名 簿	
会員名簿	34
特別会員名簿	36
卒業者名簿	40
物故者名簿	43
(社)吹田青年会議所が30年間に輩出した出向者のみなさん	46
ご協賛芳名録	47
実行委員長挨拶	48



まちびとがここ
~こころはいつも





るで築く新時代

グローカリズム~





ごあいさつ

理事長 西形方良

本年、私共 社団法人吹田青年会議所は、創立30周年を迎えることができました。これも偏に、関係諸団体 並びに市民の皆様方のご好意 ご厚情の賜物と厚く感謝申し上げます。

吹田市の千里丘陵で万国博覧会が開催された年の昭和45年8月22日、時代の要求と厚き志をもった先輩の方々により、そしてスポンサーJCであります 社団法人箕面青年会議所のご尽力を賜り、全国で436番目青年会議所として認証され、出発いたしました。

以来 私共は、「明るい豊かな社会」の実現のために、青少年育成・まちづくり・国際化推進等 様々な運動を中心に、運動をあらゆる事業に転化させ活動を続けて参りました。

本年は特にこの5年間の運動の総仕上げ、そして今後のあるべき方向性を模索し、21世紀を目前に控える新時代に向けての中、長期ビジョンを打ち出し今後の道標と致します。

本年度は「まちびとがここで築く新時代 ～ここはいつもグローカリズム～」というスローガンを掲げ、活動を通して出会った方々とのご縁を大切に、地域を原点に人と人との心を接点に連携して、有機的なネットワークを多面的に構築し、連帯感を育み、縁が絆にまで成長できればと考えます。

創立30周年を機会に初心にかえり、会員同士が更に個性と情熱をぶっつけ合い、小さな感動を積み重ね、大いなる感動、真の調和へと挑戦してまいる覚悟です。

今後共 これまで以上のご指導ご鞭撻を賜りますよう 心よりお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



祝 辞

吹田市長 阪 口 善 雄

社団法人吹田青年会議所の創立30周年おめでとうございます。また、平素は吹田市政に多大なご協力をいただいておりますことに対し、誌面をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

吹田青年会議所が創立された1970年は、吹田の千里丘陵で「人類の進歩と調和」をテーマに日本万国博覧会が開催された年で、内外から6,400万人もの人々がこの吹田の地を訪れ、わがまち「吹田」の名を世界中の人に知っていただいた記念の年でもありました。また、この30年間は激動の時代でもあり、その道のりは決して平坦なものではなかったと推察いたしますが、今日まで吹田青年会議所を支えてこられた歴代理事長をはじめ会員各位のご苦勞に心から敬意を表する次第でございます。

今、地方自治の分野におきましても地方分権へと大きく動き出しておりますが、私は「協働と協育」という新たな理念を施策に盛り込み、21世紀に飛躍する「自然、歴史、文化のまち吹田」、「福祉、環境、教育のまち吹田」の創成に向け、市民の皆様とともに「大きな目標」、「さわやかな夢」が共有できる市政の実現を目指しております。吹田青年会議所におかれましても、豊かな地域社会の創造のため、広く大きな視点から、各方面におきまして多彩で活発な活動を展開してこられました。私は吹田市と吹田青年会議所とのパートナーシップをさらに深め、市政の推進に全力を傾注したいと考えておりますので、一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

結びに、吹田青年会議所がこの創立30周年を今後の飛躍への契機とされ、さらなる年輪を刻まれ、益々発展されますことと、会員各位のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、感謝とお祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

大阪府知事 横山 ノック

社団法人吹田青年会議所の創立30周年を心からお慶び申し上げます。

吹田・千里丘陵にて日本万国博覧会が開催された昭和45年、国内436番目の青年会議所として創立されて以来、貴会議所の皆様には地域社会のリーダーとして明るい豊かなまちづくりを願った様々な活動を展開してこられたところであり、歴代役員、会員の皆様のたゆまぬご努力に対し、深く敬意を表します。

さて 大阪府を取り巻く環境は、危機的な財政状況をはじめ大変厳しいものがあります。現在、この難局を克服し、新しい時代の扉を力強く開くべく、職員一丸となって行財政改革に取り組みますとともに、創意と工夫をこらしながら、「温ったかくて やさしい 元気な大阪づくり」を進めているところです。こうした中、皆様が「まちびとがここで築く新時代～ここはいつもグローカリズム～」をスローガンに、若さと故郷吹田を愛する強いお気持ちをもって、まちづくり、ひとづくりをはじめとした幅広い分野で奮闘しておられる様子を大変頼もしく思っています。

皆様の尚一層のご尽力が吹田のまちに大きな実りをもたらしますことと、この度の30周年を機とした吹田青年会議所の限りないご発展を心からお祈りいたします。



祝 辞

吹田商工会議所
会 頭 紙 谷 豊 重

社団法人吹田青年会議所の創立30周年を、心よりお慶び申し上げます。

この30年間、皆さんは一貫してJCの綱領に基づき、青年としての英知と勇気と情熱をもって、明るい豊かな社会づくりに貢献してこられました。今年の吹田ボランティアフェスティバルの企画・運営、吹田まつりでの船渡御の再現は記憶に新しいところで、皆さんの企画力・実行力は高い評価を受け、皆さんの地域開発運動は市民の大きな共感を呼んでおります。心より敬意を表します。

いま、世界は激動しつつあります。その中であって、我が国の経済は停滞し、社会は大きく病むなど幾多の問題を抱えております。日本は、社会・経済・行政等のあらゆる面で変革していく必要があります。

いつの世にあっても、社会を変革し、新しい時代を切り開くのは、青年のもつ確かな眼と、青年の理念と情熱と実行力であります。皆さんへの期待はますます高まっております。

“まちびとがここで築く新時代”。この今年のスローガンを高く掲げて、JC運動を活発に展開され、新時代目指して大きく飛翔されますよう祈念いたします。

吹田青年会議所の皆さん、創立30周年おめでとう。どうか頑張って下さい。



祝 辞

(社)日本青年会議所

会 頭 松 山 政 司

社団法人吹田青年会議所創立30周年を心よりお祝い申し上げますとともに、本日に至るまでの諸先輩の皆様、現役諸兄の御尽力に対しまして、心より敬意を表させていただきます。

90年代最後となる本年、私は日本JC基本理念を「日本は動く その小さな勇気から」とし、教育・経済・地域主権・NPOそれぞれについてJCメンバー一人ひとりが地域のリーダーとして自覚をもって行動・実践することを促しています。

いつの時代、どこの世界においても「青年の行動力」は時代を動かす機動力となってきたはずです。いかに既存の社会システムの前に個人の力が無力に見えようとも、一人ひとりの本気の行動が無ければ変革はありません。そしてそれらの問題に対する一人ひとりの回答を、自らの一歩を進み出す勇気と、自らの行動力をもって実践するときがやってきたと思います。

今、一人ひとりが動けば、地域は日本は、かならず動く。私自身も自ら本気で実行し、そして全国のメンバーにもその勇気と希望、そして「かならずできる」という思いを伝えていきたいと思えます。

最後に、本年創立30周年を迎えられた西形方良理事長率いる社団法人吹田青年会議所の皆様が、今までのJCでの経験を生かし、一人ひとりが変革の能動者として行動され、本年の各事業に更に飛躍されます事をご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



祝 辞

(社)日本青年会議所 近畿地区協議会

会 長 棚 橋 勝 道

社団法人吹田青年会議所創立30周年、まことにめでたうございます。平素は近畿地区協議会に対し深甚なるご理解とご協力を賜り、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、貴JCが創立された1970年当時は高度成長が成熟の段階に入り、大阪万博の盛り上がりやウーマンリブに象徴されるように市民の意識レベルにおいての国際化が醸成されつつある時代でした。一方で、公害問題が顕在化しだし、経済一辺倒により生ずる歪みに対する危機感が芽生えはじめたのもこの頃です。

このように高度成長を謳歌しつつもどこかに危機意識を持ち、期待と不安が入り交じる世相の中で貴JCの創立を見たわけですが、「神崎川船渡御」やフラワーボランティアの創設など、今日までの連綿とつながる運動を通して着実に地域社会の期待に応えられました。

本年ここに30周年を迎えられ、「まちびとがここで築く新時代」のスローガンのもと、ますますのご発展とともに、ひとときわ輝きをもって新世紀をご先導下さいますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

(社)日本青年会議所 近畿地区協議会

大阪ブロック協議会 会長 小 西 市 朗

社団法人吹田青年会議所が創立30周年をお迎えになりましたことに対して心よりお祝い申し上げます。そして、本日に至るまでの諸先輩並びに現役メンバー皆様の御尽力に対しまして心より敬意を表させていただきます。また本年は、西形理事長の「まちびとがこころで築く新時代 心はいつもグローカリズム」のスローガンのもとメンバーが一丸となって各種の事業を通じて地域のために明るい未来を切り開くべく新しいチャレンジをされたこととお慶び申し上げます。

現在の日本は、平成維新といっても過言でない程の変革期に入っていると思います。この様な時だからこそ、新しい道を模索し、変革の能動者たらんとする若者の集団である我々JCの出番です。

そこで、本年 大阪ブロック協議会も「考動 変革そして自己成長」の基本理念の下で地球市民ジュニア育成の為の環境づくり・地域主権を確立する為の合併促進・自己成長の為の研修等の事業を行ってまいりました。物質欲にのみとらわれずに心豊かに行動し、周りと共に変革し、自己成長することを願っております。また、共に成長した個がよりよく作用し合い、JC運動を実践することが、やがて地域を輝かせ、大阪ひいては日本の明日につながっていくことと信じて運動を展開しております。

最後になりましたが、社団法人吹田青年会議所が、この創立30周年を節目として、これまでに培われてこられた歴史と伝統をしっかり振り返り、そしてこころ豊かな21世紀にむけて、より地域に密着した運動を展開され、ますますご発展されますことを心よりご祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



創立30周年に際して

(社)吹田青年会議所

OB会 会長 井 上 暎 夫

“わが郷土吹田市は北になだらかな千里の丘陵を仰ぎ、南は葦の葉繁れる淀の河畔を臨む豊かな自然に恵まれて…”これは昭和45年4月、わが吹田青年会議所の創立宣言文の冒頭の部分です。

その時から足掛け30年、ここに無事30周年を迎えることが出来たのも、地域の人々の暖かいご理解とご支援の賜物と、改めまして心より感謝申し上げます。

ご存知のように日本での青年会議所運動は、昭和24年焼け野原の東京から始まりました。これに遅れること21年ではありましたが、52名相集い明るい豊かな社会の実現を目指す青年会議所運動を吹田に展開する決意を致しました。

爾来、青年の特質であります先取の精神を持ち、その時々々の市民のニーズを察知し果敢に挑戦を続けて参りました。

創立時の市民の花制定の提唱、10周年の文化会館建設のアピールなど行政より一歩先を歩くことを大いなる誇りとしその事業を成し遂げる過程において幾多の修練を重ね、指導力を育み深い友情を培ってきました。これこそ青年会議所運動の大きな特色であります。

青年会議所で言う青年とは何か、法人格を与えられた団体としての存在理由は何かを常に自問しながら、次なる40周年に向け大いに前進をしてほしいと願っております。OB会は今後も心からの支援を続ける所存です。



祝 辞

浩洋青年商會

(Ocean Junior Chamber of Commerce)

會長 李 葆 珍

(President CYNTHIA P.C.LI)

On behalf of Ocean Junior Chamber, I would like to extend our heartiest congratulation to Suita Junior Chamber of their 30th Anniversary.

30th Anniversary symbolized independence, mature and energetic in Chinese traditions. Analogously, Suita as today represents the conglomeration of effort, enthusiasm and devotions to Jaycees movement from members under the guidance of past presidents during the last 30 years.

As sister chapters the slogan of Suita and Ocean are in common ;“Suita Spirit ,Just Do It”versus “Ocean Spirit ,we can make it”,these two sentences have demonstrated the belief of our members in Jaycessim is strong. No matter how tough it would be,it did not cripple our value,blind our vision,destroy the will of those determined to create the positive change to the mankind.

The theme of Suita 30th Anniversary, which has reinforced the value,claritied the vision and stiffened the resolve at the dawn of a new millennium.

Under the capable leadership of President Shigeyoshi Nishigata ,Suita will surely continue to advance towards its goal and achieving the highest level of development in all aspects.

Last but not the least,may I wish the President Elect Masaru Ishikawa,and his board of directors every success in year 2000 endeavors in pursuing the ideals of Jaycees and creating the future.

社団法人 吹田青年会議所の30周年に際し、浩洋青年商會を代表して、心よりお祝いの言葉を述べさせていただきます。

中国の伝統的な表現では、30周年とは独立と成熟、そして、活力を意味します。現在の吹田JCはこの30年間の各理事長の指導のもと、各JCメンバーの努力と情熱、そしてJC運動への献身がいままさに結実した姿であるといえるでしょう。

姉妹JCとして、我々 浩洋青年商會と吹田青年会議所のスローガンは、ともに「吹田青年会議所 Just Do It」及び「浩洋青年商會 We can make it」です。これらの二つの言葉は我々メンバーのJCイズムに対する強い信念を表現しています。いかなる困難に直面しても、我々の信じる価値は損なわれず、ビジョンは輝き、人類に対して有意義な変革を与えようという我々の意思に揺るぎはありません。

吹田青年会議所の30周年のテーマは「いま再び考えよう 人類の進歩と調和」であり、これは我々の信じる価値を高め、ビジョンを明確化し、新しい千年紀の幕開けに向けての決意を固めるものです。

西形方良理事長の卓越したリーダーシップのもと、吹田青年会議所は間違いなく躍進を続け、全ての意味において最高レベルの目標を達成されるでしょう。

最後になりましたが、次年度 石川勝理理事長予定者と、理事会のメンバーの皆様に対し、未来をつくり、JCイズムを追及するために2000年に遂行される努力が全て成功されるようお祈りを申し上げ、御挨拶とさせていただきます。



認 承 証 伝 達 式

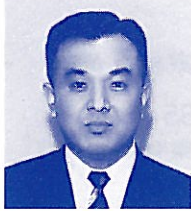


創 立 総 会

30年のあゆみ

① 1970年（昭和45年）

「人類の進歩と調和を目指して」



理事長：木村 俊之
 会員数：63名
 （内本年度卒業生数：1名）

⑥ 1975年（昭和50年）

「挑戦しよう!!今こそ地域にJCを」



理事長：井上 暎夫
 会員数：80名
 （内本年度卒業生数：9名）

② 1971年（昭和46年）

「フレンドシップ」



理事長：曾呂利昌弘
 会員数：65名
 （内本年度卒業生数：5名）

⑦ 1976年（昭和51年）

「磨けJAYCEE 活かせJC」



理事長：加野 元
 会員数：65名
 （内本年度卒業生数：5名）

③ 1972年（昭和47年）

「明るく豊かな地域社会づくり」



理事長：井上 義信
 会員数：72名
 （内本年度卒業生数：5名）

⑧ 1977年（昭和52年）

「考え、行動し実現しよう
 素晴らしいJC、明るい社会」



理事長：藤満 宣夫
 会員数：76名
 （内本年度卒業生数：8名）

④ 1973年（昭和48年）

「JC運動は市民のなかで」



理事長：増田 泰士
 会員数：73名
 （内本年度卒業生数：4名）

⑨ 1978年（昭和53年）

「上げようJCの輪を」



理事長：瀧川 紀征
 会員数：73名
 （内本年度卒業生数：2名）

⑤ 1974年（昭和49年）

「見なおそう、見きわめよう、
 そして自ら行動しよう」



理事長：関山 守洋
 会員数：83名
 （内本年度卒業生数：8名）

⑩ 1979年（昭和54年）

「躍進と熟成をめざして」



理事長：川上 浩邦
 会員数：95名
 （内本年度卒業生数：9名）

⑪ 1980年(昭和55年)

「もっと知ろう人間を 社会を 世界を」



理事長：関山 正彦

会員数：97名
(内本年度卒業生数：3名)

⑫ 1985年(昭和60年)

『『団結と躍進』
友情とふれあいの輪を広げよう!!』



理事長：家村 武志

会員数：85名
(内本年度卒業生数：11名)

⑬ 1981年(昭和56年)

「考えよう行動しよう
明るく吹田を市民と共に」



理事長：成尾 紹雄

会員数：100名
(内本年度卒業生数：5名)

⑭ 1986年(昭和61年)

「明日への可能性を求めて」



理事長：足立 善信

会員数：85名
(内本年度卒業生数：3名)

⑮ 1982年(昭和57年)

「自立の心・明日への創造」



理事長：故 中川 克

会員数：101名
(内本年度卒業生数：15名)

⑯ 1987年(昭和62年)

「未知への挑戦」



理事長：柳川 義行

会員数：88名
(内本年度卒業生数：8名)

⑰ 1983年(昭和58年)

「創ろう心豊かな地域社会」



理事長：堀田 稔

会員数：92名
(内本年度卒業生数：11名)

⑱ 1988年(昭和63年)

『『妥協なきリーダーに』
夢ある未来社会に向けて』



理事長：井村 卓治

会員数：96名
(内本年度卒業生数：12名)

⑳ 1984年(昭和59年)

「幸福への挑戦
『豊かな心と生きがい求めて』



理事長：安達 昌秀

会員数：77名
(内本年度卒業生数：9名)

㉑ 1989年(平成元年)

「ふりかえろう 原点を
進もう 明日に向かって」



理事長：木村 義雄

会員数：94名
(内本年度卒業生数：14名)

⑳ 1990年(平成2年)

「井の中の蛙(かわず) 大海も知ろう」



理事長：西川 哲成

会員数：109名
(内本年度卒業生数：5名)

㉑ 1993年(平成5年)

「君の笑顔に逢いたい」



理事長：曾呂利晴彦

会員数：118名
(内本年度卒業生数：10名)

㉒ 1991年(平成3年)

「限りない未来・それは青年の夢
—明日の地域社会のリーダーに—」



理事長：橋本 浩

会員数：119名
(内本年度卒業生数：8名)

㉓ 1994年(平成6年)

「開け広がれ J C 運動」



理事長：大枝 正人

会員数：119名
(内本年度卒業生数：10名)

㉔ 1992年(平成4年)

「創造ろう 未来のまち・ひと・ゆめ」
—一心で築く新しい吹田—



理事長：山崎 睦治

会員数：131名
(内本年度卒業生数：12名)

〔25周年 5つの提言〕

1. ひらけひろがれ花の街すいた

— すいたの街が好きだから —

市民・企業・行政が三位一体となって地域環境の問題に取り組もう。

2. 公園の新たな楽しさ提案

— まちづくりと公園 —

利用する人、時間、曜日によって公園に求めるものが変わります。

まちづくりでは、公園と利用者の調和が大切。

3. 今、古典行事を見直す

— 市民とともに、見つけよう 心のふるさと —

市民の「心のふるさと」づくり。吹田まつりで高浜神社の「船渡御」の再現を目指そう。

4. すいたInternational Human Bond (IHB)

— 地域を基盤とした市民の世界との絆 —

国際交流を主として海外の人々と友好を深めてきたが、今後は共生・絆を深めることへ重点を移そう。

5. 自然への気づき

— 青少年教育分野において —

我々が果たすべき役割と可能性を求めて、地域子どもたちに感動や自然への気づきの場を提供することにより、子どもたちと共に我々も成長しよう。

理事長：淀井 満福 会員数：109名 内本年度卒業生数：10名



吹田JCは、社会開発、青少年開発、国際問題、環境問題、高齢化問題等、様々な事業に取り組んできました。これら一連の事業は、「明るい豊かな社会を築き上げる」という理念に具体的に目標を持ち実践してきました。その行動力は、市民、行政からも大いに評価されてます。特に「吹田まつり」

の見直しと実行委員会の構成の実績は、JC外からも大いに評価されるところであります。独自の財源を持ち、如何なる干渉に対しても、自主性を持ち、運営の手続きも厳格であると思います。

JCは、他の社会奉仕団体とは異なり、友情、修練を掲げ、40才を過ぎJCを卒業してからも学んだこと、体験したことを様々な団体、企業、社会でその能力を遺憾なく発揮されており、会員に対する指導力開発は、重要だと考えます。「単年度制」は、会員に対して新たな出会いや修練の場を与えるという面で、JC独自の大変すばらしい運営方法だと考えます。しかし、一年というのは仕事を持ち、家庭を持つ会員にとって決して長くはないと思います。その結果、事業の継続性がなく、JC外の評価も下がりぎみだと感じるこの頃です。個々の事業の目標が市民を集めて、その動員数

にその事業の成功が判断されるところに大きな落とし穴があるように思います。少数でも、その事業に共に参加し共感した人々により、自然に広がっていくように促す、そのような事業が町づくりにつながると思います。

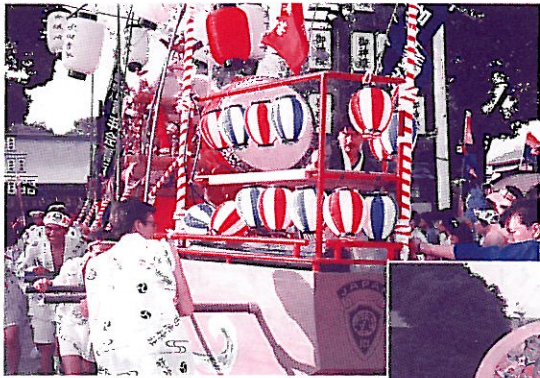
昨年25周年記念事業は、大変すばらしかったと思います。

「ひらけひろがれ花の街すいた」「IHB」「平成の船渡御」「地球発見・ふれ愛発見」これら一連の事業は、市民と共に行動し、市民が楽しみ出来る事業と考え、もう一年継続し、私たち以外の人々により運営していただけるよう行動して行きたいと考えました。

また、1月17日早朝におきた阪神・淡路大震災では、多くの国民が支援したくても出来なかった中、私達は市民・行政を巻き込み、被災地に対して、JC運動を通して、支援することが出来ました。私は、JCの会員であることを誇りに思いました。多くの方々が協力していただきここにお礼申し上げます。また、たよりない理事長をささえて頂いた当時の会員みなさんに感謝いたします。

震災ボランティア





吹田まつり

7月29日～7月30日

JR吹田駅前周辺

(さんくす広場及び高浜神社～旭町商店街)

前年スタートの陸渡御(天王丸)がパレードのメインとして根づいてきました。



指導カセミナー「心と身体の鍛練」

5月27日～5月28日

奈良県吉野郡天川村洞川大峰山

委員会メンバーが、共通して感動したことは、中田君がどのような気持ちで今回の登山に挑んだかという話です。



夏の家族会

7月15日～7月16日

淡路島慶の松原

金井副理事長の車の鍵を紛失した時、夫人、子供、メンバーが一体となって探していた光景を見て、すばらしい団体であると再認識しました。

- ・吹田市子供野外カーニバル
- ・自然との共生プログラム
- ・IHB意識を高める事業
- ・全国大会副主管
- ・ひらけひろがれ花の街すいた
- ・ドッチボール大会
- ・クリスマス家族会
- ・吹田操車場跡地利用についての提言

世界の出来事

- 1\$ = 79円史上最高値

日本の出来事

- 阪神・淡路大震災(95.1.17)発生
- 地下鉄サリン事件

吹田の出来事

- 市制55周年
- 市長、市議会議員選挙

理事長：前田 健治 会員数：104名 内本年度卒業者数：7名



当時を振り返ると理事長時代もさることながら色々することが山積していました。日本JCの様式に合わせた理事会資料、会計規則、定款の見直し、事務局経費および会議費用の削減等。どこのLOMでもちょうど25周年から30周年という時期

は会員の入れ替わりやキャリアとノンキャリアの比率の逆転する時期です。そのなかで在籍18年目にして27代理事長に就任した私は、後の会員に残せるもの、今後必要性のないものなどの整備、制定が自分の使命と考えました。細かなことから言い出すときりがないですが、一番苦慮しましたのは、パソコンの導入であったと思います。理事役員の各自が購入するという大変な出費も強要しましたが、前年度淀井理事長の志を引き継ぎ、「ペーパーレス」に挑戦しました。ペーパーレス会議の一番の意義は会議時間の簡素化と最大のメリットは資料の事前配布につきると思います。幸いにして現在ではいずれのことも当たり前のように普及

して、よかったと思っています。一方地域においては思いっきり暴れました。色々な諸団体の皆様の前で積極的な意見交換とお付き合いをいただき、現在でも皆さんに親しくしていただいています。JCは自己を試し、自己を磨く素晴らしい場であります。最後になりますが現役会員に今言えるのは 1. 時間を無駄にするな(意義のある会議の開催を) 2. 自己の殻を突き破れ(マスターベーションで終わるな) 3. 英知と情熱をもった事業を(最初からオチの分かるような事業はやめろ) 4. おっさんみたいになるな(若者らしくアクティブに) 以上、今後共現役会員の素晴らしい活動を祈念申し上げます。

『吹田まつり神崎川宣言』採択

提 言

1. 豊かな地域社会は、行政があたえてくれるものではない。

住民一人一人の手によって育むのが地域なら、地域活動に積極的に参加し、地域の考え方の盛り込んだ都市整備を行政に行ってもらおう。

2. 伝統を伝えなければ、昔話になり、やがて忘れられ特徴のないまちになる。

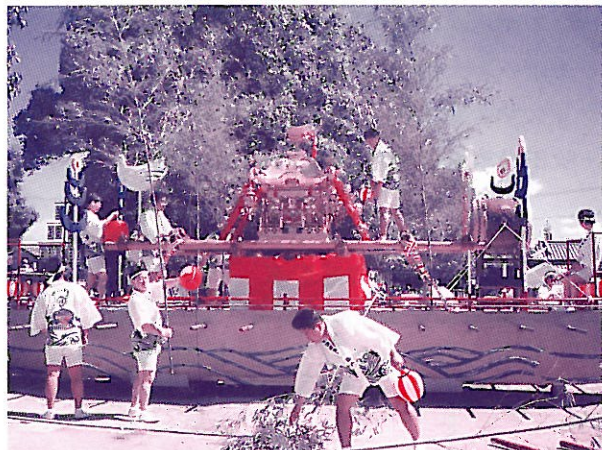
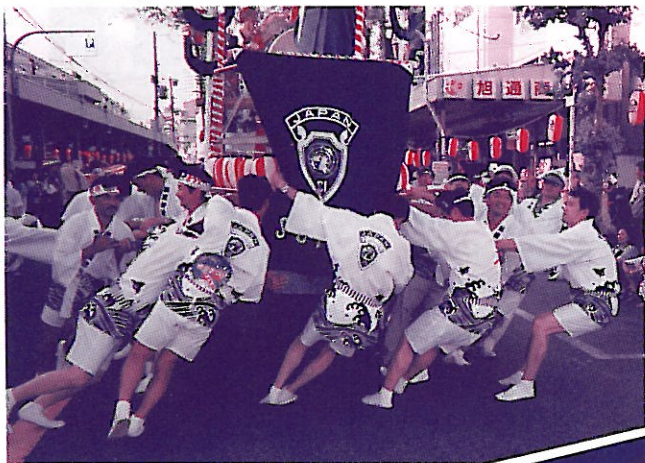
ふるさと吹田を創造する為に伝統的な、高浜神社の船渡御を神崎川で再現し、次の世代へ伝えていく。

3. 吹田市は、旧吹田、ニュータウン、江坂と個々の町の集合体でよいのか。

個々は、特徴のある町でよい、しかし、吹田市は一つでなければならない。

お互いに競い合い、協力し合う、地域の絆が深まるまつりであれ。

吹田まつり 7月27日～7月28日





なかよしスケート大会

2月3日

MBSミリカスケートリンク

施設の子供達が毎年楽しみにしているスケート事業。

青年経営者セミナー「マナー講座」

4月26日

西尾邸

全体として楽しく興味を引く内容のセミナーができました。



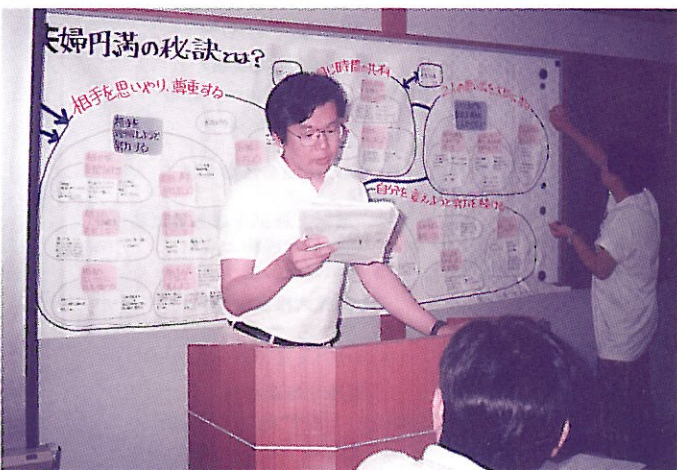
指導力開発スクール

～左右の脳を活用せよ～

6月15日～6月16日

箕面勝尾寺宿坊応頂閣

チームワークを養おうという目的でおこなったものですが、一番収穫があったのは担当メンバーかもしれません。



- ・ドッチボール大会
- ・子供野外カーニバル
- ・ひらけひろがれ花の街すいた
- ・地球市民の自覚をもつための事業

- ・オーシャンJC来日
- ・夏の家族会(神鍋)
- ・クリスマス家族会(千里阪急)

世界の出来事

- アトランタオリンピック開催
- ペルー日本大使館占拠

日本の出来事

- 新選挙制度による初の総選挙
- 薬害エイズ事件

吹田の出来事

- メロード吹田オープン

理事長：橋本 徹也 会員数：91名 内本年度卒業生数：12名



「夢をかたちに」— 語ろう夢を 続けよう夢の運動 市民と共に —
1997年度のスローガンと言うより、夢を実現していくこと、青年会議所のあるべき姿、役割だと思っています。この一年間も少しでも夢に近づけるよう、運動、活動しようと思がけました。

先輩たちから引き継いだ夢、25周年で発信した夢が、30周年、またそれ以降に、“かたちに”なるべく工夫を行い取り組み、また、30年に一度しか回ってこない、第13回大阪府都市緑化フェア(江坂公園)や、50年に一度しか回ってこない、第52回国民体育大会なみはや国体(北千里体育館レスリング会場)等のチャンスを活かし、全国から吹田市に來られた方々にも運動が広げられたと思います。

内部的な例会、会員セミナー等を出来るだけ公開事業とし、多くの市民の方々に参加していただき、我々の広報の場、共に考えていただく場とし、メンバーも緊張感を持って取り組みました。

そして、毎年事業のことで頭が一杯で、自分達のお金で、自分達の時間を割いて、活動している青年会議所が、どうあるべきか考え、自覚を持っていただくために、委

員会数を減らし、例会とは、別に、月に一度、夢会議と題して全メンバーが4つのテーマに分かれ、語り合いました。(社)吹田青年会議所は、こうあるべきだ! このようにして行こう! と夢会議報告書にまとめましたが、何より議論しあったメンバーの心の中に刻み込まれたと思います。

最後に、振り返ってみますと、この一年間は、全メンバーの工夫とチャレンジの年であったと思います。

SUITA JAYCEE SPIRIT “JUST DO IT!” (1997.8 通常総会採択)

宣言文
Suita Jaycee Spirit

青年会議所に求め続けられてきたもの。それは、行動力……。 (社)吹田青年会議所は、“人類の進歩と調和”を目指して万国博覧会の年に創立し、28年間多くの先輩方が、伝統と文化を継承しながら常に前進を続けてきました。

その行動力の源は、自ら始める意思の力です。

その昔、アメリカ合衆国のケネディ大統領は、国民に向かって“Do it”— 国が我々のために何をしてくれるのかではなく、我々が国のために何が出来るのか—と訴えかけました。

今、私達も地域のために何が出来るのかを求め続け、互いにこの精神を忘れずに前進しましょう。

“Suita Jaycee Spirit. Just do it!”

私達(社)吹田青年会議所メンバーは、この言葉をもって自ら積極的に行動することを誓います。

夢エリアに集まれ!「地球市民ジュニア」

8月8日～8月10日

家族旅行村ピラデスト今津(近江今津)



夢会議からの提言

～夢をたくして～

<自己改革推進会議>

～吹田JC 自己改革6つの心得～

- 一、なくそう! ムリ、ムダ、ムラ
- 一、一人で来るな!
- 一、プラス思考で強い組織を目指せ!
- 一、木を見て森を見よう!
(目的と手段、運営と運動をはき違えるな)
- 一、そのマナー一般市民の模範となれ!
- 一、CD5サイクルを実践しよう!

<会員拡大推進会議>

みんなでやる“会員拡大”

～LOMの未来のために～

<国際化推進会議>

“国際は、まず地域から!”

“内なる国際化”を発展させる心が
日本の新しい“国際”を創り出す。

<長期ビジョン策定会議>

ちょっと素敵な“時代”づくりを目指して!

私たちのまちの長期ビジョンを持ち、
それを実現するための行動を今こそ起こそう!





2月公開例会 2月18日

吹田さんくすホール

講師：水野彌一氏

(京都大学アメリカンフットボール部監督)

より広く市民に吹田青年会議所の活動を理解してもらい、新入会員拡大が大きな目的。

3月公開例会 3月18日

江坂東急イン

講師：辺 真一氏 (コリア・レポート編集長)

すいた環境教育フェア(ポスター募集)

6月14日

メインアター

実行委員会運営を提案し、吹田青年会議所の企画担当として、実施された。

「ひらけひろがれ花の街すいた」のPRポスターに吹田市在住の吹田第二小学校1年生 あきやま さらむさんが選ばれました。



クリスマスの家族会

12月13日

太閤園

新入会員の成尾君、河崎君は劇の立案から監督・主演までよく動いてもらいました。

- ・なかよしスケート大会
- ・豊中・箕面・吹田3LOM合同例会
- ・冬の家族会(スキー・マキノ)
- ・公開セミナー
 - ・浩洋青年商会創立10周年記念式典参加
 - ・第1回吹田外国人市民会議
 - ・吹田まつり
 - ・ホームページ開設
- ・「阪神大震災・いま思うこと、そしてこれから」の手記発刊 (吹田まちづくり・人づくり市民サミット)
- ・日本海重油流出災害支援
 - ・ドッジボール大会
 - ・ひらけひろがれ花の街すいた
 - 《近畿地区褒賞人づくり推進賞受賞》
 - ・コスモッチバッチ作製
 - ・神崎川宣言に沿った運動 (ペーロン大会、ドラゴンボート大会 参加他)

世界の出来事

- 香港がイギリスから中国へ返還

日本の出来事

- 消費税5%に
- 神戸酒鬼薔薇事件
- 山一と拓銀破綻

吹田の出来事

- 第52回国民体育大会なみはや国体開催
- 第13回大阪府都市緑化フェア

理事長：木田 昌宏 会員数：85名 内本年度卒業生数：12名



私は、29代目理事長に就任させていただきました。

理事長に選ばれた当初、JC歴もまだ8年間とまだまだ未熟だっただけに不安要素は多々ありました。その上、「大阪ブロック会長輩出LOM」、「30周年準備の年」等々たくさん

の重責をこなしていけるのだろうかといろいろな考えばかり渦巻き、不安な時期がありました。しかし、LDで教わった「目的を決めることで方法はいくつもある」という考えを実践する事を心がけ、「はい、喜んで」という前向きな考えを持ち、一つ一つ計画を立ててこなしていくという考えで常に行動することで自分の気持ちを整理できました。

病気になったり、調子が悪かったりしたこともありましたが、JCの事業になると不思議と治り、欠席することなくこなせたことは今でも自信になっています。

人間プラス思考になることで、これほどまでに出来るものかと実感しました。

確かに事業や会議に出席することで時間的・金銭的にはしんどかったですが、決して苦にならず今までにない経験が出来た事を感謝しております。

一年間、理事長をさせていただき一番勉強になったのは、私自身であった一年間でした。

大阪ブロック協議会会長

橋本 徹也 君 輩出

例会の運営 通年



100%例会の目標を目指し、動員の際に伝わったのか、講師の先生の魅力があったのか、結果、最高88%の高い出席率をあげる事が出来ました。





オーシャンJC来日

4月10日～4月30日

姉妹JCであるオーシャンとの交流もスタートから10年を経て、ステップアップしました。

「内なる国際化」への運動 (吹田外国人市民会議)

9月4日

サニーストンホテル

外国人の方と接点を持ち、交流を深め、共に学び、考え、行動していく場として位置づけました。



吹田国際交流フェスティバル

11月15日

吹田万博公園自然文化園東の広場

吹田JCの主張が取り入れられ、外国人団体、関係諸団体が実行委員に加わることができ、その過程において、他団体との交流も深まり、共にまちづくりに参加しているという認識も高まりました。

- ・ 京都例会
- ・ オーシャンJC訪問
- ・ 指導力セミナー(ゆとりとリーダー 勝尾寺)
- ・ 新入会員セミナー
- ・ 夏の家族会(和歌山マリーナシティ)
- ・ 経営者セミナー
- ・ すいた環境教育フェア
- ・ 吹田まつり
- ・ ひらけひろがれ花の街すいた
- ・ 市民とのフレンドシップ事業(ドッチボール大会)
- ・ クリスマス家族会(迎賓館)
- ・ ガンバ大阪ファンの集い

世界の出来事

- 長野オリンピック開催
- サッカーW杯 日本初出場

日本の出来事

- 金融再生法案可決
- 和歌山ひ素カレー事件

吹田の出来事

- 済生会吹田病院移転

25周年提言の成果 (30周年記念事業)

環境 ▶ ひらけひろがれ花の街すいた事業

1999年度 環境づくり委員会 委員長 中原 秀樹

(社)吹田青年会議所は、1994年に「ひらけひろがれ花の街すいた」運動として、市内を花で一杯にすることにより、汚すことのできない美しい街づくりを目指し、活動を続けて今年で6年が経ちました。その運動の一つとして、市民の方々を対象にフラワーボランティアを募り、1996年度より7つの活動公園（千里北・千里南・山田西第2・佐竹・片山・江の木・中の島）で始まったフラワーボランティア活動も4年になります。市民自らの手で美しくしよう、花で一杯にしよう、フラワーボランティアの方達が、吹田市内に配付される花の種まきや苗の移植のお手伝い、そして公園の花壇の草引き、水やり等、花と緑を増やす活動を展開してきました。活動公園も、1997年度に江坂公園の活動が始まり、本年度、3月に紫

金山公園、6月に佐井寺南が丘公園、新芦屋中央公園、南吹田公園、9月に桃山公園と活動地域が増え、現在では市内13公園、人数も150名近いメンバーの方がおられ、13代から70代まで幅広い年齢層の方達が各公園で活動されています。又、今年、吹田市長の阪口市長がフラワーボランティア名誉会長として就任され、8月21日の(社)吹田青年会議所の30周年記念大会の中では、吹田市長からフラワーボランティアの方々に今までの功績と今後の激励の意味が込められた感謝状の授与式行われました。今後も名の如く「ひらけひろがれ花の街すいた」運動の更なる推進を展開して行く次第です。



吹田まつり

◀まちづくり

1999年度まちづくり委員会 委員長 西田 剛嗣

1999年7月31日第30回記念吹田まつり前夜祭「神崎川会場」が無事開催できました。この事業は吹田青年会議所25周年、つまり1994年に「神崎川でのまつりと戦前まで行われていた船渡御の再現を」と提案し、阪神・淡路大震災等色々な問題を乗り越え、5年間絶え間なく運動し続けてきた関係者全員の努力の成果であったと思います。皆様本当にご苦労さまでした。

今後は今まで以上に市民参加ができ、市民の手によって創られる「吹田まつり」になることを祈念し、担当委員長の感想とさせていただきます。



25周年提言の成果 (30周年記念事業)

国際 ▶ 吹田外国人市民会議 国際交流フェスティ バル

1999年度 国際化推進委員会 委員長 中野 聡

25周年時の提言の一つとして、「吹田International Human Bond—地域を基盤とした市民の世界との絆—」が発信されました。これはこれまでの国際化が、交流を主として海外の人々との友好を深めてきたものから、共生・絆を深めることへ重心を移していこうというものでした。そして「絆づくりから内なる国際化へ」に進歩し、“外国人市民会議”、“国際交流フェスティバル”を実現する事が出来ました。

今後は、あらゆる人々が、未来に向かって一つの輪を描けるような活動を展開していきます。



宇宙(ソラ)と地球(ホシ)と

梅雨も終わりにさしかかる7月9日から、子供たち36名を連れて大阪南港から高知シーラインに乗り四国は甲浦港へ出航した。客室最下部にあたる2等客室（いわゆる団体用船室）はすぐ下にあると思われる船のエンジンの大音響がもろに伝わってくる。最初、JCメンバーも子供たちもなかなか寝つけなかったが、夜がふけるに連れて静かになっていった。少し眠っただろうか、4時30分に船内の灯りがつきぼーっとした頭のまま洗顔を済ませると、船は甲浦港へ到着した。

余談ではあるが、この2週間後この船はここで座礁してしまうのだ。危ない所だった。

ここで紹介させてもらおう。これから2日間御世話になる、みとこ荘について、徳島県穴喰町の高ぎわの高台にある“国民宿舎みとこ荘”現地調査のときから本当に親切にして頂いてみとこ荘さんのご協力がなければ、この事業の成功は無かつただろう。

本題に戻るが、このときすでにみとこ荘さんがマイクロバス2台で、港まで迎えに来てくれました。全員でバスに乗込みみとこ荘へ。

2時間ほど仮眠をとって、曇天の中に海水浴にでかける。ここでのこの事業の現場責任者として痛切に感じたのは、36名もの子供たちに目を配るのは不可能で、子供たちが海に入っている約3

1999年度 青少年育成委員会 委員長 坂本 一成

時間は生きた心地がしなかった。波は穏やかだったが、何十回と子供の数を数えただろう。結果的には案ずるより産むが易しで何事も無かったのだが、せっかく海にきているのだから泳がせてやろうなどと、安易な考えはやめるべきだと思った。

そのあとの“村津キャップ場”ここがまた大変親切に頂きました。天気はしだいに悪化の傾向にあったが、自分たちの分は自分たちで作るという考えで、ほとんど使ったことなどないであろう包丁で、野菜を切ってみたりバーベキューのかまどの火をおこすメンバーの手伝いをしたり、顔をすすだれけにしながらがんばっていました。やっぱり自分たちで作ったバーベキューはおいしかったらしく、当初は材料が大量に残るのではないかと思っていたのですが、何も残らずきれいになりました。後片づけも最後まで自分たちでやりきりました。

その後のもんどりづくり、もんどりと言うのは日本古来の漁の方法の一つで、いったん仕掛けに入った魚は後戻りしないという習性を利用したもので、本来は竹を細く切ったりして作るのですがエコロジーをモットーとしているのでペットボトルの再利用で子供でも簡単に作れるよう工夫されたもので作りました。

翌朝、これを上げたのですが小さな魚が数匹と

エビが数匹掛かっていました。もちろんキャッチアンドリリースですべて川に放してやりました。

みとこ荘に帰ってよいよ星空学級の天体観測なのですが、空は全く星が見えません。時期的にも予測はされましたが、非常に残念で仕方ありませんでした。星も見えない屋上でA.O.Aの方々が、プロジェクターを駆使して、星の話をしてくださっている時になんと、少しずつ雲が切れてくるではありませんか。もう少しで、子供たちが眠ってしまいそうな寸前に、天は我々の味方をしてくれました。“おおぐま座”“夏の天三角”“カシオペア”“雲状星団”etc…

素晴らしい星々が、子供たちの目の前に広がりました。話の間中眠そうにしていた子供たちも、我先に望遠鏡の元へ走り、壮大な天体ショーに大満足でした。

翌日、地球市民の時間にはみんな真剣に話し合い、素晴らしい意見がたくさん出てきました。子供たちの中の何かが、少しでも変わってくれば成功だったと思います。

最後に、委員会メンバーが次々と、退会していく中スタッフをはじめ、会員育成委員会のみなさん、その他全メンバーに支えられ、この事業は成ったと思います。本当に、本当に感謝しています。みなさんありがとうございました。



30周年記念事業

誰だって輝きつづける愛がある 吹田ボランティアフェスティバル

1999年7月3日

アメニティ江坂内 吹田江坂テニスセンター
屋内テニスコート

事業目的

「自分たちの事は自分たちで、そして他人のためにも汗を流せる・・・」
この事業は吹田市及び吹田市近郊で活動している様々なボランティア団体に呼びかけ、その趣旨や活動内容を紹介していくことで、子供からお年寄りまで一人でも多くの市民の方々にボランティアに興味を持っていただき「私にもできるボランティア」をそこで見つけて頂きます。また、興味があるのにどのように参加してよいかわからないと思われている方々への媒体の役割を果たします。
そして当日の収益金やNPO事務局設立準備金として寄付することで更にボランティア団体のネットワークづくりの一助になることを目指します。そして、共に1999年よりまちづくり市民運動を続けているこの市民サミットが、21世紀に向けたNPO団体のリーダー的組織となることで、吹田のまちづくり人づくり運動を推進します。

誰だって輝きつづける愛がある ～吹田ボランティアフェスティバル～

福祉、国際、青少年、環境、文化、まちづくり…
色々な分野のボランティア団体がブースを出します。
あなたにも参加できるボランティアが必ず見つかるはず。
バザーで買い物するのもその場で献血するのも
立派な協力です。さあ、参加して下さい！

1999年7月3日（土）午前10：00～午後4：00
アメニティ江坂 江坂テニスセンター屋内テニスコート内

アメニティ江坂内駐車場可
江坂駅より送迎バス有



送迎バス時刻
江坂駅～アメニティ江坂
毎時00分・27分・47分
午前8：00～午後5：00の間
バス停「美術館前」下車

ボランティア紹介ブース 約60の団体による楽しい活動紹介 ボランティア参加受付	コンサート TV・ラジオで活躍中の アカペラグループ VOICES (ヴォイセス) 他 15：15～16：00
「あなたに会えてよかった」 モントリオールオリンピック 女子バレーボール金メダリスト 中野眞理子 14：20～15：10	講演 「生きてるってシアワセ！」 全国骨髄バンク推進連絡協議会 副会長 大谷貴子 出演者の都合により 時間を変更する場合 があります。 13：30～14：00

体験コーナー 車イス、盲導犬 体験してみなくちゃわからない	バザー 安く買っのもうれしい そのお金が人にまことに 役立つのもっとうれしい
--	--

主催 吹田まちづくり人づくり市民サミット
吹田市自治会連合協議会・吹田市こども会育成協議会・吹田市社会福祉協議会
吹田市高齢クラブ連合会・吹田市PTA協議会、(財)吹田市健康づくり推進事業団
吹田職工会議所・吹田市職員労働組合・(社)吹田青年会議所

主管 社団法人 吹田青年会議所 (問合せ先 06-6386-1475)

後援 吹田市・吹田市教育委員会・(財)大阪21世紀協会

協力 (株)サンリバー・(株)ダスキン

担当者意見より

事業を考えるにあたって、(社)吹田青年会議所の過去の事業を振り返ってみました。私達は今まで何を目的にどういうことを目指して事業を行ってきたのか・・・。様々な団体との交流、市民主体のまちづくり事業、そして、それが市民自らの手で行われていくために青年会議所が行政や各種団体や市民同士のパイプ役になってきたと思います。そこで、「ひとりでも多くの市民がまちづくりに参加して欲しい」という気持ちと「ボランティアで一生懸命活動されている方たちがそのリーダーになってもらいたい」という気持ちを結びつける事業が必要なのではないかと思いました。

1995年～1999年 思い出の一枚



創立30周年記念大会



1999年8月21日
万国博ホール



社団法人 吹田青年会議所 創立30周年記念大会主旨

1970年「人類の進歩と調和」をテーマとした日本万国博覧会が開催されました。この万国博覧会において、私達人類が、科学により豊かになっていくこと、そして人類が互いに協調して生きていくことを学び、人類平和が達成されることを共感できました。

その日本万国博覧会が開催された年、1970年8月22日に、変革の能動者となり、明るい豊かな社会づくりを目指す我が吹田青年会議所が誕生しました。

創立以来30年間、様々な運動や活動を通して、行政・関係諸団体・一般市民の方々にご協力、ご尽力賜りながらたくさんの事業に取り組んで参りました。

この間、確かに我が国は、物質文明は輝かしい発展（人類の進歩）を遂げて参りましたが、地球的規模においては、戦争や紛争は絶え間なく起き、環境においても地球温暖化やダイオキシン問題、核実験による放射能汚染など、豊かな自然環境や豊かな心（人類の調和）とうものがいかに実現困難なものかを学びました。

そして、ここ近年、国内においても環境破壊・青少年問題・国際問題等ライフスタイルの変化と少子化、利己的思想等コミュニケーション不足による殺伐とした世の中になってしまったのではないのでしょうか。

科学による生活の便利さや豊かさにおけるの進歩は輝かしい発展を遂げましたが、人類や環境との調和が、取り残されてしまったように思います。

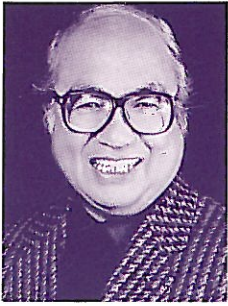
（社）吹田青年会議所は創立30周年を迎えるにあたり、運動や活動を振り返りながら今後の目的をしっかりと認識し、この調和に重点を置き、すぐそこに迫った21世紀へ夢と希望を込め、変革の能動者らしく未来へ発信し運動を展開していく所存でございます。

私達は30年前に見たあの『人類の進歩と調和』への夢を忘れてはなりません。

私達から吹田市民へ、日本全国へ、そして世界へメッセージを発信すべく大会テーマを『今再び考えよう 人類の進歩と調和』と掲げ、この夢を人の心に蘇らせるために記念大会を開催したいと思っております。

— 記念講演 —

～暮らしの心 再発見～



鈴木健二氏

鈴木健二氏

講師プロフィール

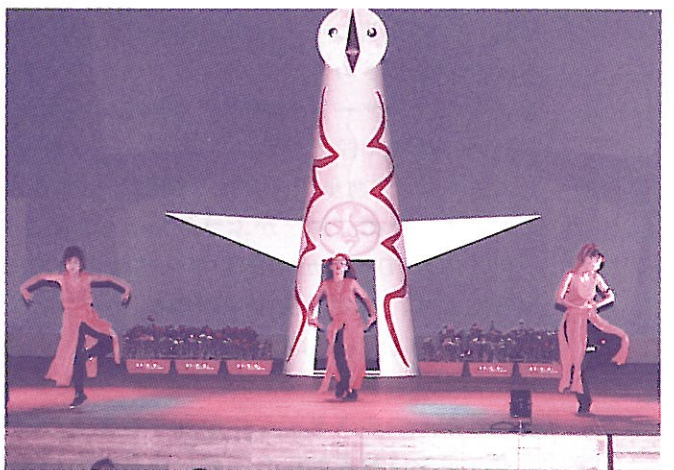
1929年 東京生まれ

1952年 NHKアナウンサーとして入局

1988年 NHKを退局

熊本県立劇場館長を経て青森県文化アドバイザー、青森県立図書館館長、青森近代文化館館長に着任。

著書は、ベストセラー作家の地位を確立した「気配りのすすめ」など、人生論を中心に200冊に及ぶ。



VIDEOメッセージ

経済企画庁長官

堺屋太一氏

1936年 大阪生まれ

1960年 通商産業省入省

日本万国博覧会を担当したり、沖縄開発庁に赴向中は沖縄海洋博を手掛けたり、通商白書では「水平分業論」を展開し、世界的に注目された。また、在職中に執筆した小説「油断！」がベストセラーになった。

1978年に退官後、執筆、評論活動に入る。

1998年 経済企画庁長官就任



堺屋太一氏と理事長



「今再び考えよう

人類の進歩と調和」

1963年頃、日本で万国博覧会を開こうと言いだした時に、当時の大阪の人は、敏感に反応してくれました。これが、その頃の大阪のパワーだったと思うのです。そういう中からまず、日本の“進歩”・人類の“進歩”と言う概念が出てきました。

そして、“進歩”と日本的な“調和”の概念、この2つを組み合わす事で、“進歩と調和”と言うキャッチフレーズが出来たのですが、当時は、やはり人類は“進歩”するものだ、時間と共に歴史と共に“進歩”するものだという考え方が強かったんですね。そこへ、“進歩”だけではいけない、やはり“調和”を入れなければいけない、というのが、このキャッチフレーズだったんです。その頃すでに、自然環境の問題が結構大きな話題となっておりましたし、また世界との“調和”と言うことも言われておりました。

万国博覧会が開かれた1970年当時、その前年の安田講堂事件に代表される学園紛争の時代で、万国博覧会の準備をした時というのは、大変過酷な状態でした。みんなが自分を主張しどンドンと激論する、若い人々たちが集まると何処へ行ってもワンワン議論をする、そういうような雰囲気があったのです。先輩たち中高年齢者が来て、「まあまあ、そう議論しないで一杯飲めよ。」といった押さえ方をしていた時代だったんですね。そういう中で、この万国博覧会がもの凄い勢いで、盛り上がっていく。そして人類史上かつて無い6400万人もの入場者数という非常に大きな行事になった、その波及効果が広まって70年代の日本の文明をリードしたのだと思います。

万国博覧会から生まれたものは沢山有ります。例えば、洋服ではカジュアルウエア。万国博覧会の開会式のビデオを見ると、男性はほとんど背広を着ています。当時はカジュアルウエアが無く、外へ着ていく服は背広か、学生さんなら学生服というのが、当たり前でした。そこへ暑い中万国博覧会へ行くのにネクタイを締めなくても良いカジュアルウエアというものを売り出そう、という考えが出ました。ところが、従来の繊維業大手はどこも乗ってこなかったのです。これが、結局新しいブランドが沢山出来るきっかけとなりました。

また、ファーストフードも、初めて万国博覧会で生まれたものです。万国博覧会へ初めて来るお客さんがほとんどで、この店はどういったものを売っているのか、どういったサービスをしているのか、どの程度混んでいるのかまったく分からない。だから、外から店の中が見えるようなレストランを作ろうと言ったところ、当時の大手のレストランチェーンは全部が反対で、日本人は食べているところを人から見られるのは一番嫌うからと言って、みんな出店しなかった。ところが、今をときめくファーストフードの一流の会社は、やってみようやってみたところ、大当たりしました。ファーストフードで有名な「マクドナルド」や「すかいらーく」などは、万国博覧会が終わってすぐ設立されています。そういった文化を生み出す力が万国博覧会には沢山有りました。まさに、“進歩”と共に“調和”があり、みんなが個性を主張し“志（こころざし）”をもってあたる、その“志”がぶつかり合ったところに“調和”があるんです。

ところが70年代がすぎ80年代になると、日本が先進国になり豊かになる。そして若い人が減少しだして、日本社会全体が年をとってくる。そうすると、“志”がぶつかり合うのではなしに、お互いに嫌なことは言わないでおこう、遠慮しておこう、まあ良いじゃないのというのが“調和”になってきたんですね。“進歩”が止まると共に、“調和”が無くなっていく、お互い遠慮することが一つのスタイルになってしまったのです。

今、日本は経済的にも困難な状態にあります。そう言う意味でも、もう一度“進歩と調和”と言う意味を思い出していただきたいと思います。

「これからの 人類の進歩と調和」

現在の日本は、経済的に不況にあります。これは一時的なもの、サイクル的なものでありますが、そこから脱け出した時の日本がどうあるか？ 2年後、3年後に不況を克服して、経済が再生された時の日本がどうあるべきか？これを私達は、真剣に考えなければならないと思います。

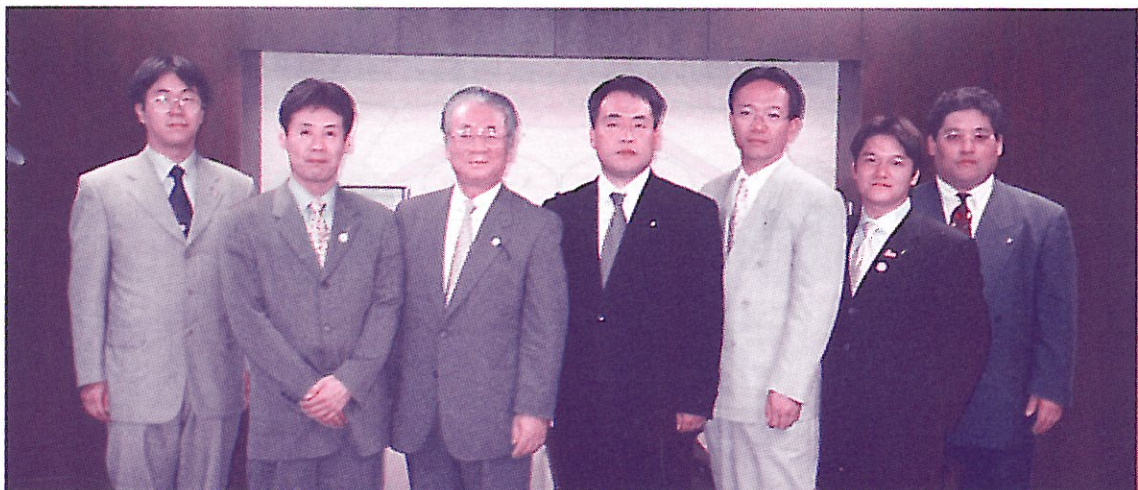
というのは、今日本は人口の少子高齢化にあり、それだけでも国の活力が衰える状況にあります。その上、若い人達が大人しくなってきた・議論しなくなった・自分の夢を持たなくなった。もうそれはこうなるのに決まっているのではないかと言う、所謂“確定論”が蔓延してきたのです。今計算した事が人生を確定している様な感じを持っている、これは非常に危険なことです。およそ自分の予想通りに過ごせる人生などありません。同じ様に、国の歴史・街の発展にも予想通りという事は有り得ないのです。

何かが起こるこの何か変化が起こった時に、決して慌てない事が“覚悟”というものです。昔は“覚悟”の出来ている人が人格的に偉い人だと言われたのですが、今はこの“覚悟”という言葉も無くなってしまいました。そして覚悟が無いから勇気を持って危険を冒すという事が無くなり、ひいては新しい提案をしてみよう・変った事をしてみようという“志”が無くなってきました。一体、この日本・大阪の街をどうしようか？そして自分の人生・自分の家族をどうしようか？こうなったら良いというもの・夢に向かって闘う“進歩の精神”が無くなって来ました。この“進歩の精神”が無いから、ぶつかり合う事も無い。“調和の精神”も無い。調和というのは、ぶつかり合うところから初めて生まれるものなのです。だから、文明と自然が調和するというのは、文明が発達して、自然に対して闘いを挑み、それに対して自然が反応する、その間にどう調和を求めるか？ということで、文明を抑えたら駄目なのです。今、私達が直面している最大の問題は、“志”が無くなって来たこと、そして自分達の夢を実現しようという気概・熱意が無くなって来た事、其れゆえに“調和”という事を言う必要も無くなって来たのです。なんとなくほおっておいても、衝突の無い、お互い衝突を避けあっている、その為社会全体が進歩しなくなっている、これが非常に恐ろしい事だと思うのです。所謂“タイタニック現象”という、どうせ船は沈むのだから仲良くしておこう、という感じがするのです。

“人類の進歩と調和”この本当の意味、“進歩”とは“志”である、“調和”とは互いに熱気がぶつかり合う“調整”である。そういうことをもう一度思い出して、あの1970年の賑わいを是非吹田の街に、そして大阪に取り戻してもらいたいと思います。

〈堺屋太一先生 万国博覧会開催
当時のプロフィール

通産省企業局
日本万国博覧会管理官補佐
日本万国博覧会テーマ委員会委員〉

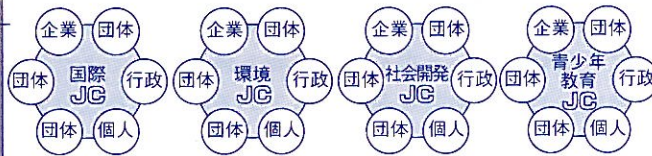


1970
(発足)

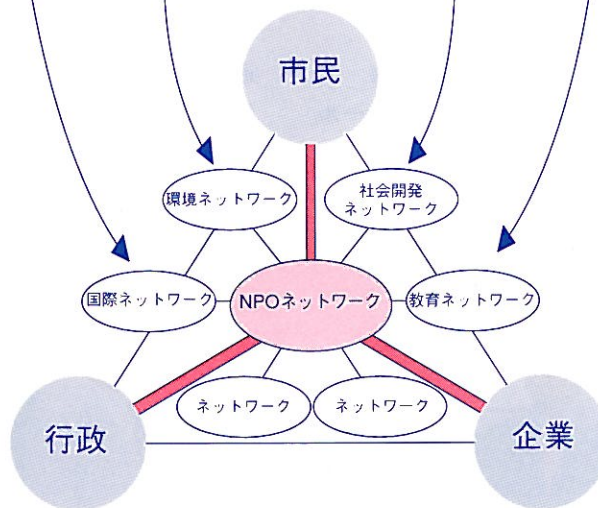
吹田JC運動の流れ



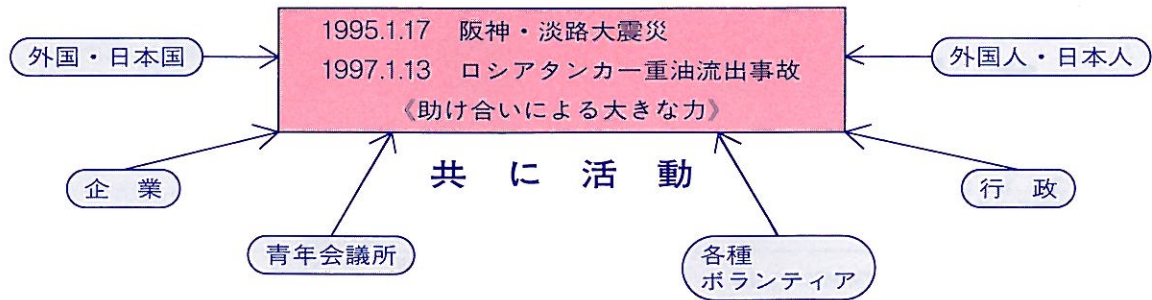
1994
(25周年)



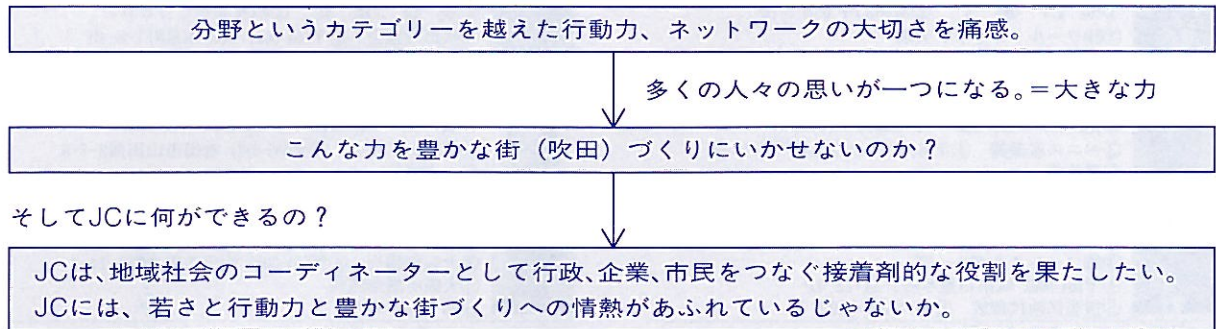
1999
(30周年)



更なる飛躍…今後のビジョン



気づき！



J C が働きかけて、市民と共に豊かなまち（吹田）づくりを……。
 豊かなくに（日本）づくりを……。
 豊かなほし（地球）づくりを……。

具体的にどんなことができるのか？

- 第1ステップ=様々な分野の団体や企業、そして行政が一堂に会して情報交換を行い、交流・親睦を通じ相互理解を図ると共に、今後のネットワークの基盤をつくる。
- 第2ステップ=そこに訪れた人々が自分にもできるボランティアや街づくりを発見していただき、活動ができるようにしていく。
- 第3ステップ=より多くの人々が街づくりに参加できるようなシステムをつくる！

このような考えから 1999.7.3 「30周年記念事業」
 「～誰だって輝き続ける愛がある～吹田ボランティアフェスティバル」の開催。

↓
 〈吹田JCが掲げる未来ビジョン〉

★我々は21世紀型まちづくりネットワークシステムの構築を目指します。★

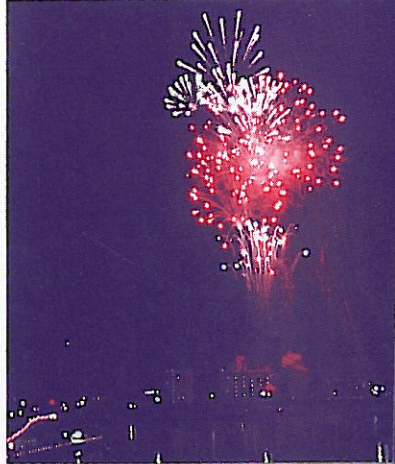
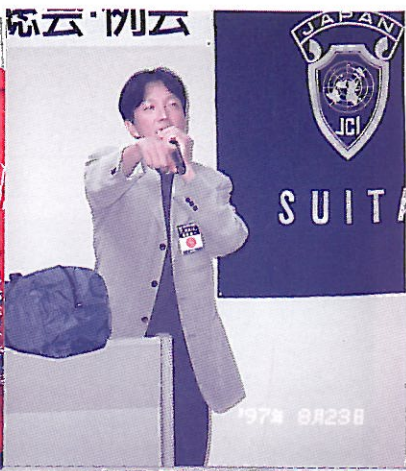
市民・団体・企業・行政が“まちづくり”という共通のテーマにおいて共に行動し、創造していく“まち”こそ未来の吹田の“まち”です。

そして、吹田JCが今後担う役割は、本来のまちの創造に向けた新しいまちづくりシステム構築へ向けて“まち”のコーディネーター的役割を果たすことです。

21世紀まちづくりシステムにより取り組んでいく具体的な内容としては、操車場跡地利用、新しいまつりの創造、NPOサポートシステム、地球市民意識の定着へ向けた運動、青少年教育、環境整備、福祉、介護等、数え切れない程有りますが、“まちづくり”の共通したテーマで市民・企業・行政が有効に情報共有をしていかねばなりません。その為のまちづくりセンターの設立や、更には他市との連携及び合併を視野に入れた広域的なまちづくりについても今後調査研究していく重要なテーマとなります。

20世紀から21世紀への節目において、時代の流れは激変しますが、勇気を持った若者として時代の流れを素早く察知し、運動を展開して参ります。

SUITA JAYCEE SPIRIT “JUST DO IT”





(社)吹田青年会議所が30年間に輩出した出向者のみなさん

(社)日本青年会議所

1976	広報渉外特別委員会 委員長	関 山 守 洋
1977	財政特別委員会 委員長	井 上 暎 夫
1981	30周年特別委員会 委員長	関 山 守 洋
1987	第三研修委員会 委員長	足 立 善 信
1988	評 議 員	橋 本 徹 也

近畿地区協議会

1992	褒賞委員会 委員長	高 津 昇
1995	近畿グローバルスクエア推進委員会 委員長	前 田 健 治
1998	大阪ブロック協議会 会長	橋 本 徹 也
1999	代表会計監査人	井 上 雄 介

大阪ブロック協議会

1974	国際関係委員長会議 議長	物 部 憲 明
1975	副 会 長	井 上 義 信
1976	統一事業委員会 委員長	瀧 川 紀 征
1977	会員開発委員会 議長	成 尾 紹 雄
1978	経営開発委員長会議 議長	阪 野 英 夫
1979	北地域担当副会長	阪 野 英 夫
1980	経営開発委員長会議 議長	中 川 克
1981	広報委員会 委員長	足 立 善 信
1982	会員開発委員長会議 議長	九 鬼 史 郎
1983	総務委員長会議 議長	木 村 義 雄
1984	北地域担当副会長	中 川 克
1986	親睦委員会 委員長	伊 藤 武 治
1990	研修委員会 委員長	金 子 武 夫
1991	監 事	西 川 哲 成
//	LDインストラクター養成委員会 委員長	橋 本 治
1993	LDインストラクター養成委員会 委員長	橋 本 豊
1994	監 事	曾呂利 晴 彦
//	「もったいない運動」推進委員会 委員長	豊 田 稔
1996	北地域担当副会長	淀 井 満 福
//	北地域担当副運営専務	橋 本 豊
1998	会 長	橋 本 徹 也
//	運営専務	西 本 健 二
//	事務局長	金 馬 隆 仁
//	事務局次長	坂 本 一 成
//	書記長	中 田 真 市
1999	直前会長	橋 本 徹 也
//	監 事	木 田 昌 宏

※上記役員以外にも、毎年多数のメンバーが出向しております。

ご協賛芳名録

(50音順)

(株)安達工務店一級建築士事務所
足立商事(株)
(株)アミンシステムクリエイト
東会計事務所
(株)イケベインダストリー
井村楽器
泉殿宮
犬飼歯科医院
税理士井上暎夫事務所
(株)井上昇商店
(株)うを七
(株)上野企画
(株)エース厨房機器製作所
大枝印刷(株)
大阪健康倶楽部
加野 元
学生服専門店 鈴や
片山神社
金子会計事務所
かねまつ矯正歯科
(株)紙谷工務店
川上歯科医院
河崎白衣店
(株)関西企画
北垣歯科診療所
北村歯科医院
共同ゴム(株)
クレールアサヒ(株)
(株)グリーンスタジオ
(株)ケーディエス
小谷澄信
香島建設(株)
(株)サシヒロ
サニーストンホテル
サニー・ハウジング(株)
栄電気(株)
三栄食品(株)
三 恵(株)
汐見装美(株)
柴田 正
摂津信用金庫
摂津電気工事(株)
摂津総合信用(株)
(財)千里保健医療センター新千里病院
(株)曾呂利組

田中英二
館建築研究所(株)
(株)棚原ネジ製作所
(株)つねみ
司 屋(株)
辻事務所
(株)土亀商店
(有)土屋印刷
トークス(株)
道家小児歯科医院
豊津ミュージックセンター
なるを
西尾酒店
西川哲成
西中島土地(資)
(株)野田テック
(有)ぱすてる-21
灰井司法書士事務所
橋本建設(株)
(株)橋本工務店
(有)ピック
平栗法律事務所
(株)平田工務店
藤田不動産(有)
双葉商事(株)
古川歯科医院
(株)堀田工務店
(株)本州化学ドライセンター
俣 野(株)
(株)丸 西
(株)丸福工務店
(有)万 両
水川歯科医院
(株)ヤオウメ
(株)柳川工務店
山崎工業(株)
山 根
山本会計事務所
由 上(株)
(株)由上組
吉富建設(株)
(株)淀井表具店
(株)ライフサービス
(株)リバーフォール
ロナクロス(株)



ごあいさつ

30周年実行委員長 原 田 偉 志

8月21日(土)日本万国博覧会会場跡地の万国博ホールで、(社)吹田青年会議所創立30周年記念大会(記念式典・記念講演)を開催しました。テーマを「今再び考えよう人類の進歩と調和」とし、「記念式典の部」を過去から現在・「記念講演の部」を現在から未来へと、記念大会に物語(ストーリー)と発信(メッセージ)を付加しました。

(社)吹田青年会議所が誕生した1970年日本万国博覧会開催の年、まだ子供だった私達は、日本万国博覧会で未来への夢と希望そして感動を与えてもらいました。

21世紀を目前にし創立30周年を迎えた私達が、日本万国博覧会会場跡地で「今再び考えよう人類の進歩と調和」というテーマを掲げることにより、あの夢と希望と感動を思い起こし、高度な技術の進歩と物質的な繁栄だけではなく、人と人との調和・心と心の調和の大切さが伝えられる記念大会としました。

私達は夢見ています「今再び考えよう 人類の進歩と調和」記念大会でのメッセージが吹田市はもとより、大阪へ、日本全国へ、そして世界へ、と広がっていくことを。



ごあいさつ

30周年実行委員長 池 田 彰 子

私達(社)吹田青年会議所は、常に「市民と共に」をこころがけて運動してまいりました。特に創立25周年より、吹田まつりにおいて歴史の復興船渡御の実現を目指す「吹田まつり神崎川宣言」、市民自らの手で街を花でいっぱいにする「ひらけひろがれ花の街すいた」と2大事業を柱に大きな広がりを見えて、地道な運動をつづけてまいりました。

そして、本年創立30周年の年に「まちびとがこころで築く新時代 ～こころはいつもグローカリズム」の理事長スローガンのもと、吹田まつり神崎川会場での「平成の船渡御、花火」の実現また「市内13公園の花壇を近隣の市民(フラワーボランティア)自らが管理する」という成果と共に「誰だって輝きつづける愛がある ～吹田ボランティアフェスティバル～」を記念事業のひとつとして行いました。これはいままでの事業を通して私達が学んできた「青年会議所とは何をすべき団体なのか」ということの結果であり、又今後の運動へのステップにもなる事業であったと思います。

最後になりましたが、事業の成功にあたっては、敬愛すべき先輩方の過去の積み重ねと側面からのあたたかい支援をひしひしと感じました。また、色々ご指導いただきました行政、並びに各諸団体の皆様、各地会員会議所の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、今後も今まで以上にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、お礼の言葉とさせていただきます。

編集後記

創立30周年記念誌を発刊するにあたり、この30年間に我々の諸先輩方が築き上げられた数多くの運動の成果を再認識することが出来ました。とりわけ最近5年間では、25周年時に提言された「吹田チャンプル'94」の運動が更に発展していることを実感することが出来ました。そして今回、未来ビジョン会議からの寄稿により、青年会議所としてこれから進むべき方向が提言されました。

企画・編集を通して、当時の諸先輩方の青年会議所に対する「熱き想い」を肌で感じることが出来、今後の青年会議所活動への原動力を得ることが出来ました。

最後に本誌の発行が遅れましたこと、又本誌の不備な点をお詫びし、諸先輩・関係者各位のご支援ご協力に心から感謝申し上げます、編集後記とさせていただきます。

企画・編集 30周年メディア特別委員会

委員長：新宮 成人

副委員長：中田 真市

委員：井上 雄介、大江 鉄郎、鐘搗 成夫、河崎 浩一、田邊 寛
辻本 巖、徳永 親俊、成尾 友紹、矢倉 昌子

発行責任者 西形 方良

社団法人 吹田青年会議所

創立30周年記念誌

発行日：1999年12月25日

発行：社団法人 吹田青年会議所

〒564-0052 吹田市広芝町10-3 サニーストンホテル内

TEL06-6386-1475 FAX06-6337-1682

企画・編集：社団法人 吹田青年会議所 30周年メディア特別委員会

印刷：大枝印刷株式会社

〒564-0031 吹田市元町28-7 TEL06-6381-3395



SUITA JC 30th

SUITA JC Homepage
<http://www.suitajc.or.jp/>